NEWS LETTER



[編集・発行] 社会福祉法人全国社会福祉協議会 国際社会福祉基金委員会

〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

JAPAN NATIONAL COUNCIL OF SOCIAL WELFARE INTERNATIONAL SOCIAL WELFARE FUND COMMITTEE 4F Shin-kasumigaseki Building, 3-3-2 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8980 TEL: 03-3592-1390 FAX: 03-3581-7854 E-MAIL: z-kokusai@shakyo.or.jp URL: http://www.shakyo.or.jp/

Vol. 91_{12023.12.25}



- P.1 はじめて日本の社会福祉の現場を体験しました 一第 37 期アジア社会福祉従事者研修一
- P.5 福祉施設で専門分野の実践を学ぶ フォローアップ研修を実施 -
- P.7 「みなさん ありがとうございます。」 一育むプロジェクト 子どもたちからのメッセージ ー
- P.8 災害時における支援について情報共有一国際社会福祉協議会北東アジア地域会議(NEA)ー

はじめて日本の社会福祉の現場を体験しました - 第37期アジア社会福祉従事者研修 -

★第1回施設研修を実施しました

アジア社会福祉従事者研修事業では、第 37 期研修生の 5 名が 7 月 18 日から 8 月 30 日にかけて第 1 回施設研修に取り組み、実際の福祉現場において日本の社会福祉を体験しました。今号では 9 月 14 日 に行われた研修報告スピーチの内容をもとに、その様子をご報告します。



チョイさん(韓国)

社会福祉法人三愛荘 (群馬県渋川市)



三愛荘は障害福祉施設を運営する法人です。わたしは障害者支援施設やグループホーム、児童発達支援センター等で研修しました。

今回の研修を通じて、わたしは韓国と日本の障害福祉制度のあり方についてたくさん考えることができました。施設ができること、地域社会ができること、社会全体でできることなど、それあると思いました。障害があっても大切だと思いました。また、今回の研修をとおして、社会福祉の仕事は、すべての人たちの幸福感を引き出し、一緒に泣いたり、笑ったりすることなのだろうとあらためて気づくことができました。



シンヅさん (台湾)

社会福祉法人至誠学舎立川 (東京都立川市)



児童養護施設での研修では、子どもたちの生活をサポートしながら、さまざま活動に参加しました。子どもたちは東京都のドッジボール大会に出場するため、一生懸命練習をしました。「あきらめない」、「自分ならできる」という気持ちで出場した大会では3位になり、自信に溢れた子どもたちの姿を見ることができました。また、職員が精一杯応援する姿にも感動しました。職員の気持ちが子どもたちに伝わり、子どもたちが力を発揮することができたと感じました。

障害福祉施設では、就労継続支援事業について学びました。台湾には利用者の障害の状況等に応じた就労支援事業がないため、とても勉強になりました。

今回の研修で一番大切だと考えたのは、「誠(まこと)の心」です。福祉の専門職が誠の心をもって関わることで、利用者が「誠の心」を感じてくれるということを、研修を通じて感じました。



アイさん (タイ)

社会福祉法人中心会 (神奈川県海老名市・相模原市)

わたしは相模原南児童ホームで研修しました。ここには 0~3歳までの子どもが生活する乳児院と、4~18歳までの子どもが生活する児童養護施設があります。子どもたちはのびのびと暮らしていました。夏休みだったこともあり、子どもたちとたくさん話をすることができました。夏祭りにも出かけました。子どもたちがタイの文化に興味をもってくれたことがうれしかったです。わたしはみんなにガパオライスをつくりました。

タイの児童養護施設と比べると、日本は子どもの数に対して職員の数が多く、子どもと向き合う時間を大切にしていると感じました。今回体験したり感じたりしたことを、タイでも活かしたいと思いました。別れのときに、子どもたちからの「アイさん、ありがとう」というメッセージが部屋に貼ってあり、とても感動しました。





イスルさん (スリランカ)

社会福祉法人東京光の家 (東京都日野市)



東京光の家では、視覚障害のある方の生 活支援や、知的障害のある方の就労支援 等を行っています。最初にわたしは、アイマ スクをして目の見えない人の感覚を学ぶ訓 練を受けました。利用者は目が見えなくて も仕事の手順をしっかり把握していたことに 驚きました。缶バッチをつくる仕事や、点字 の本をつくる仕事などを一緒にしました。知 的障害者の就労ホームでは、レストランの 仕事もしました。利用者に毎日「おはよう ございます」とあいさつすることでコミュニ ケーションがとれるようになり、心が温かく なりました。利用者が「イスルさん、イス ルさん」と話しかけてくれることが嬉しかっ たです。研修では、障害のある利用者が どのように仕事をしているか、また利用者 が仕事をスムーズに行うために、職員が どのような支援をしているかを学ぶことが できました。



リズキさん (インドネシア)

社会福祉法人暘谷福祉会 (大分県速見郡日出町)



空気がおいしく、景色がきれいな場所で、とても良い環境でした。施設では生活支援が必要な高齢者に対するサービスだけでなく、元気な高齢者へのサービスも行っていました。入浴介助、食事介助、リハビリテーション、送迎などを通じて、ケアの仕方を学ぶことができました。食事介助では、利用者が食べ物を飲み込んだことをきちんと確認することなど、ケアのポイントをていねいに教えていただきました。デイサービスでは利用者から自分自身のことやインドネシアのことを質問していただいたことがうれしかったです。職員は誠実に利用者への支援をしていたので、施設がとても温かい雰囲気でした。

インドネシアにもこのような施設があるといいと思いました。

★日本の福祉施設の現場に触れました

9月には、日本の社会福祉への理解をより深めるため、施設見学を行ったほか、国際福祉機器展の見学にも行きました。

▶ 島田療育センター(東京都多摩市)

日本で最初の重症心身障害児施設である島田療育センターでは、施設の創設の経緯や現状について動画等を交えながら説明をいただいた後、デイケアセンター等の見学をしました。スヌーズレンの手法を用いた五感を使った専門的なケアや、職員の創意工夫にもとづく四季折々の装飾、音やにおい等によるさまざまな刺激によって利用者の生活に変化を与え、心を安定させる取り組みを見学することができました。医療と福祉の専門家が定期的に情報交換し、連携した取り組みをしていることもわかりました。



▶ ミッドナイトミッションのぞみ会(千葉県富津市)

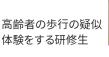
児童心理治療施設「望みの門木下記念学園」には特別支援学校の分教室があり、医療と教育と福祉が連携しながら対応していることがわかりました。また、児童養護施設「望みの門かずさの里」では子どもたちの声を聴くための意見箱の取り組みや、どの職員も子どもたちに対し同じように対応できるように作成した独自のマニュアル等を紹介いただき、多くの学びを得ることができました。





▶ 国際福祉機器展(H.C.R. 2023)

第 50 回を迎えた国際福祉機器展を見学しました。最新の車いすへの試乗、パラスポーツの挑戦、利用者の体調等を管理するシステムのデモンストレーション、高齢者の生活の疑似体験などを通して、さまざまな福祉機器やその活用について学ぶことができ、とても充実した1日となりました。





福祉施設で専門分野の実践を学ぶ ーフォローアップ研修を実施 ー

10月2日から19日に、フォローアップ研修を実施しました。

フォローアップ研修は、母国で福祉活動に従事する修了生を対象として、日本の社会福祉関係者とのネットワークの強化や社会福祉制度、社会福祉施設の実践活動等を研修する機会を提供することを目的に、2005年度より実施しています。2018年度の実施以降、コロナ禍の影響により本事業の実施を見合わせていましたが、5年ぶりに実施し、台湾のリャオさん(33期生)と、インドネシアのアニサさん(35期生)が17日間の研修に参加しました。

【研修·訪問先】

	リャオさん(台湾・33 期)	アニサさん(インドネシア・35 期)
専 門	高齢者分野	児童分野
施設研修	社会福祉法人東京栄和会 (東京都)	社会福祉法人養徳園(栃木県)
	社会福祉法人六親会(千葉県)	社会福祉法人至誠学舎立川(東京都)
訪問	社会福祉法人天竜厚生会(静岡県)	

リヤオさん

社会福祉法人東京栄和会 なぎさ和楽苑(東京都)での4日間の研修では、在宅介護の現場におけるサービスのほか、職員の育成や労働災害を防ぐための方法、中長期計画等の組織運営に関する事柄についても学び、職員の方がたと意見交換をしました。地域住民との交流スペースや、ボランティアとの関係の築き方も参考になりました。

社会福祉法人六親会 プレーゲ船橋(千葉県)での5日間の研修では、実際の介護現場での研修のほか、介護職員の教育や、サービスの質、業務の標準化のための手順書等について学びました。

フォローアップ研修を通して、組織のマネジメントに関する多くの取り組みを学ぶことができました。



なぎさ和楽苑の鈴木 信男理事長と



六親会で説明を受けるリャオさん

アニサさん

社会福祉法人養徳園(栃木県)での4日間の研修では、児童家庭支援センターでショートステイを利用する子どもたちと過ごしました。ここでは、子どもの趣味や好きなものなど、子どものことを知るためのアセスメントの方法等について学びました。インドネシア語やインドネシアの文化を紹介するなど、子どもたちとの交流も楽しみました。

社会福祉法人至誠学舎立川(東京都)での5日間の研修では、 児童養護施設で暮らす子どもたちを支えるソーシャルワーカー、心理 士、ケアワーカーなど、さまざまな職種によるケースカンファレンスに 参加し、それぞれの役割を学びました。また、法人の主催するミニバ ザーへの参加等を通して、法人が地域住民やボランティアとのきず なを育み、大切にしていることを学びました。



子どもと一緒に絵を描くアニサさん



至誠学舎立川のバザーにて

特定技能実習生との交流 社会福祉法人天竜厚生会 (静岡県)



山本たつ子理事長とアジア研修 37 期生リズキさん、 インドネシアから特定技能で来日している方がた

天竜厚生会を訪問し、特定技能制度により天 竜厚生会で働いているインドネシア人と交流しま した。山本たつ子理事長からは、日本における 福祉人材不足の現状を伺うとともに、外国人材 の雇用にあたっての法人の考え方等について話 を聞きました。

台湾においても深刻な労働力不足から外国 人労働者の受け入れが制度化されており、介 護の現場でも働いています。リャオさんは、山 本理事長の話を受けて、自国における外国人 労働者の処遇などについて説明しました。

施設研修・訪問を終え、フォローアップ研修の報告会を行いました。お二人からは、短期間の研修ではありましたが、母国の福祉向上に対する熱意が高まったと報告がありました。

「みなさん ありがとうござます。」 ー 育むプロジェクト 子どもたちからのメッセージ ー

既報のとおり、今年度より開始した「アジアの子どもたちに寄り添い、育む」プロジェクトは、 各国で経済的な困窮などにある子どもたちに対して、修了生のネットワークを活かし、教育や就 労の機会が得られるよう支援する事業です。

支援を受けたマレーシアの子どもたちから、修了生を通して感謝のメッセージが寄せられましたのでご紹介します。

マレーシア



第 11 期修了生のスティーブンさん(下の写真の一番左)をプロジェクトリーダーに、2 名の修了生が 8 名の子どもたちの支援を行っています。制服や給食費など、通学にかかる費用の支援をしています。



QRコードより、 子どもからの メッセージを 見ることができ ます。



「温かいご支援に 感謝します。 一生懸命勉強 します。」





制服等を購入した時の様子

子どもたちへのメッセージを募集しています

子どもたちに、ぜひ、日本の皆様からのメッセージをお寄せください。いただいたメッセージは、修了生を通じて子どもたちにお届けします。平易な日本語のメッセージであれば、修了生が母国語に翻訳して子どもたちに伝えます。 イラストや動画でも結構です。以下の連絡先にお寄せください。

全国社会福祉協議会総務部国際福祉協力センター

TEL 03 – 3592 – 1390 mail z-kokusai@shakyo.or.jp

災害時における支援について情報共有 - 国際社会福祉協議会北東アジア地域会議(NEA) -

10月25日~26日に、「災害時におけるソーシャルワーク」をテーマに国際社会福祉協議会(ICSW)北東アジア(NEA)地域会議が韓国・ソウルで開催されました。5つの国・地域(日本、韓国、台湾、香港、モンゴル)の加盟団体が参加し、社会福祉関係者が情報共有をはかりました。

日本からは、全国社会福祉協議会 古都賢一副会長が「災害福祉支援活動の現状と強化に向けた取り組み」をテーマに、日本における災害復興の支援政策のほか、社会全体で被災者を支援するための民間支援の拡がりについてレポー

「会議の主な参加団体】

国・地域	団体(ICSW加盟団体)	主催
日本	全国社会福祉協議会	
韓国	韓国社会福祉協議会	0
台湾	ICSW台湾	
香港	香港社會服務聯會	
モンゴル	モンゴル社会福祉団体連合	

トしました。また、全国社会福祉法人経営者協議会災害支援特別委員会の塘林敬規副委員長が、「災害被災地における社会福祉法人・施設の取り組み」をテーマに、2016年4月の熊本地震、2020年7月豪雨の2つの災害における、熊本県経営協および熊本DWATの対応について報告しました。会議は4年ぶりの対面での開催となり、北東アジア地域間の交流を深める機会となりました。



実践レポートを発表する塘林氏



日本、韓国、台湾、香港、モンゴルの代表者

日本からの参加者は、会議に合わせ、アジア社会福祉従事者研修修了生の勤務する施設を訪問しました。 キム ギョンホさん(36期生)の勤務する上洞総合社会福祉館では、地域住民の拠点として、多様なサービスを提供する取り組みを見学しました。パク ヒョンソンさん(30期生)の勤務する社会福祉法人又聖財団ハンアルムでは、重症心身障害児のショートステイ事業について説明を受けたほか、知的障害者が働くクリーニング工場や、入所するユニットの見学をしました。



キム ギョンホさん (36 期) から 施設の取り組みの説明を受ける古都副会長



知的障害者が働くクリーニング工場の説明をするパク ヒョンソンさん (30 期・写真中央)